



「夢から醒めた夢」と私たち

2年団全員の力が結集された送別芸能祭。役者、大道具、小道具や衣装、音響、照明、報道などすべての部署の頑張りで、素晴らしい劇を創り上げることができました。これは119名の皆さんの力です。

劇が終わり、全員そろって写真撮影をしました。その時の皆さんの顔は満足感や達成感でいっぱい、本当にきらきらと輝いていました。

学年団合唱も、今までの中で一番の合唱でした。最後に聴かせてもらった3年生の合唱もすばらしかったですね。「あんな先輩になれたらいいな。」ときっと思ったことでしょうか。これからも皆さんなら何事もベストをめざして頑張れるはずです。素晴らしい送別芸能祭をありがとうございました。

【送別芸能祭 友達のあんな気持ち・こんな気持ち】

僕は、役者で「やくざ」という役をさせていただきました。「やくざ」と聞くと怖そうだけど、本当は優しい人なので、演技でそれが出せるようがんばりました。僕は、なかなかせりふが覚えられずに苦労したけど、覚えてからはそれをどう工夫するか、気持ちの込め方はどうするか、を考えるのが大変でした。本番まで、何度も新しく演技を工夫することを考えて、実践していくのは大変だったけど、みんなどんどん上達していくのすごいなと思いました。

本番当日は、今まで工夫してきたこともきちんと発表できました。必死に練習してきたことはちゃんと身にしみついているんだなと思いました。



今年は、初めて大道具を担当しました。大道具は作り直すことができないのでとても大変だと思いました。完成した時のイメージを思い浮かべることが大切でした。劇に合うように上手にできているか不安だったけれど、デビル役の友達が、うまく利用してくれていたの、本当に作ってよかったと思いました。今回の劇を通して思ったことは、1年生のころよりみんなが考えて、動いていたということです。誰かに頼るという場面が、なくなっていたのかなと思います。



役者の友達が、他の係より早く練習を始めていて、頑張っていることを感じていました。だから、少しでも劇をやりやすいように、係の一人としてみんなの意見を大切にしたいと思いました。台本から音を探すより、役者の友達が練習している所を見ることは、音をイメージする時に役立ちました。また、自分も自然と役者のせりふや歌を口ずさんでいて、それぞれの役者になって音を考えることは大切だと思いました。さらに、楽譜を作って、それを録音してくれる友達もいました。探したどんな音よりも、役者の動きにぴったりで、劇を引き立ててくれました。これまでの行事で3年生はダンスや合唱など後輩の私たちに残してくれたものがたくさんあります。先輩たちもきっと、次の私たちにつなげてくれているのだなと思いました。

今年の送別芸能祭も1年生の時と同じ、小道具・衣装の仕事を選びました。今年は男性アンサンブル15人分の衣装を作らないといけませんでした。家で残った作業をすることもあったほど、大変でした。途中でネクタイを何本か作り直したり、予定してなかったネクタイピンを作ったりと、いろいろと大変でした。でも、その分やりがいを感じました。15人全員が同じ服装で、同じダンスを踊っていて、とてもかっこよかったので、「作ったかいがあったな。」と思いました。

3年生になったら、劇を見せてもらう側になるので、とても楽しみです。



練習する時間が少なかったのですが、とても大変でしたが、本番に間に合ってよかったです。今年は、照明を担当して、役者の動きに合わせる所が難しく、一番難しかったのは「マコの名前を探すシーン」です。照明の円盤を回すので、タイミングよく白い色にするのは難しかったです。今回で、劇を創るのは最後で、悲しいですが、とても楽しかったです。みんなで協力して、劇をつくることができ、本当によかったです。1年生の劇もおもしろかったです。送別芸能祭の準備から、当日までのすべてがとても楽しかったです。

私は役者でした。大道具や衣装、小道具、音響、照明、報道の係の人たちは、何かお願いするとすぐに改善してくれて、それに加えてもっとよりよくするために頑張ってくれていました。全員の力が合わさっての成功だと思います。役者は、本番では大きなミスなく、3年生もとても楽しんでくれていたようで、よかったです。副校長先生に、「伝統を受け継ぐことができている。」と言って頂けた時は、とてもほっとしました。いろいろな人に「よかったよ。」と言ってもらえて、本当にとっても大きな達成感を感じました。

僕は男性アンサンブルでしたが、みんなとたくさん練習していく中で、最後の「別れ道！」という歌詞が決まった瞬間は、かっこいいし、気持ちよかったです。また、背景や音響などすべてを入れて、劇を通した時に、背景はすごくいいに仕上がっていて、音もおもしろいBGMや、映画のような心揺さぶられるBGMなど、バリエーション豊かでした。僕が劇に出る場面は少ないけど、頑張ろうと思えました。そして、迎えた本番で、いすを出したり、パソコンの乗ったテーブルを運んだりとたくさんの人の手伝いをする事に決めました。これが、2年団の送別芸能祭へのお礼だと思って、しました。全力で演じ切れてよかったです。これが劇をする側としては最後だと思うと、なぜかさびしいです。



1年生の劇もすごかったけど、やっぱり自分たちの2年生の送別が自分では「いいなあ。」と思いました。比べるものではないけれど、自分たちが頑張ったからそう思ったのかも知れません。劇をする最後の送別芸能祭で、最高の結果が出せてうれしかったです。来年は劇を見る方なので、自分たちを超える最高の劇にしてほしいです。

私は、報道として、いろいろな部署を見に行ったり、インタビューしたりしました。みんなが協力して頑張っている姿を見ることで、2年回はこんなに協力できて、こんなに本気になって、こんなに素晴らしいものを創り上げることができるんだと圧倒されました。本番まで、エンドロールもおもしろいものを作ることができるように、頑張りました。最後の最後まで指導して下さった先生方、大変な中でも、しっかりと練習して、よりよいものを創ろうと団結して、頑張ってくれた仲間。すごい作品が完成したと思います。すごく楽しかったです。

私は、音響のピアノを担当しました。曲数が多かったので、苦戦することがいくつかありました。いろんな点を解決するために、何度もDVDを見ながら、メロディーを確認し、曲の雰囲気を出せるように、ひとつひとつの音を大切にしながら、楽譜にしました。先生からのアドバイスや、役者の人に確認しながら仕上げていく過程は、とても勉強になりました。

今回の送別芸能祭では、3年生の旅立ちを祝う気持ちと、今までお世話になった感謝の気持ちを込めて演奏することができました。劇が終わり、これまでみんなと一緒に練習してきた成果が発揮されたと思うと、胸がいっぱいになりました。

劇から学んだ「仲間を信じ、人を幸せにすること」を3年生になっても忘れずにたいです。



〈保護者の皆様へ〉

先日の送別芸能祭に多数ご出席くださりありがとうございました。119名で力を合わせ、力を尽くし取り組んだ「夢から醒めた夢」は、今年の劇「ドリーミング」に続く素晴らしい劇となりました。それぞれにとって忘れられない大切な思い出となったことと思います。いよいよ来年は、送られる側になります。これからは、最上級生としての自覚をもち、後輩のよき手本となって、充実した毎日を過ごしてほしいと願っています。

保護者の皆様方には、いろいろとご心配等をおかけしたこともあったかと思いますが、温かいご支援・ご協力をいただき、職員一同感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



歌は「心」です。みんなの気持ちがひとつになりました！

前へ
少年の日に読んだ「家なき子」の物語の結びは、
こういう言葉で終わっている。
前へ。
僕はこの言葉が好きだ。
物語が終わっても、
僕らの人生は終わらない
僕らの人生の不幸は終わりが無い。
希望を失わず、つねに前へと進んでいく、
物語の少年ルミよ。
僕はあの健気なルミが好きだ。
辛いこと、厭なこと、哀しいことに会ったが、
僕は弱い自分を励ます。
前へ。

大木 実

